

だれでも幸せになれる教えです!!

# ひかり

2021年

6月

190号

窓下有清風



◇施しと素直さが幸せを招く

宗教法人 真生会

# 仏の種を育てよう！

『一人が一人、仏縁にお誘いしよう』

## 真生会の教えとは！

仏さまの智慧とものの見方を身に付け、自分の運命を変え、在家の法華経教団です。宗旨宗派は問いません。どなたでも安心してお越し下さい。

### ◇慈悲の世界「真生楽園建設」

- ・ぬくもりと安心のある家庭と社会を作る
- ・思いやりと親切の実践

### ◇即身成仏「輝く自分作り」

- ・ありのままに輝く自分自身になる
- ・笑顔と明るい声かけの実践

### ◇幸福の五ヶ条

- 一、素直な心：（おかげさま）
- 二、誠の心：（まず人さま）
- 三、明るい心：（きつとよくなる）
- 四、尊ぶ心：（仏性を拝む）
- 五、信じる心：（皆、仏の子）

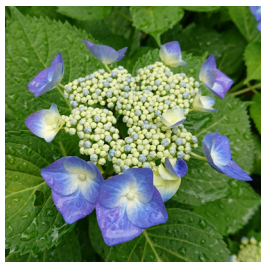


梅雨の輝き!

紫陽花

真生寺の谷あいには  
色どりのアジサイが  
雨つゆを輝かせながら  
それぞれに精一杯咲いています!

小さな花が身を寄せ合って一つの大きな花を作っているアジサイは、私たちにコロナ禍を乗り越えるヒントを与えてくれているようです! 花言葉は「辛抱強い愛情、寛容、元気な女性、和気あいあい、家族団らん」





光徳会館のリフレッシュ工  
を行っています。屋上屋根の  
修復と外装のリメイクです。  
七月のお盆法要、胡蝶忌法要  
には、お色直しをして参拝者  
の皆様をお迎え出来ます。



恩師の池、本堂前の一念三千の池  
の鯉たちも元気に迎えてくれます。



総本山真生寺



**LINE 公式アカウント**（一般公開）

総本山真生寺の行事や四季の写真をお届けします !!)



真生会ライブ

**LINE 真生会ライブ配信**（会員限定）会長先生のご法話が視聴できます。会員相互の招待で参加できます。誘い合って法の輪を広げましょう！

◇ YouTube 「**真生寺ナムル**」でも動画を一般公開中◇



## 開祖さまのみ教え

開祖 田中偉仁

病気には薬で治る病気と薬では治らない病気の二通りあります。毎月人生教書を愛読しているという二十一歳の看護婦さんから「二、三ヶ月前からあごの骨が痛み続け、口元まで腫はれてしまい、勤め先の病院でも東京医科歯科大学病院に行っても原因不明で、薬を飲んでいますが悪くなる一方です」という電話相談です。

「口の病気は口で罪を作ったのです。口が開けないほど痛むのは、平素から口で相手の喜ばない言葉を吐いたり、相手を傷つけたり、怒るような徳の積めない大きな口を開いてきた罪ですよ。そして、激しく痛むのはき性の激しい人であるためです。心当たりがあれば直ちに改め、感じの良い返事をし、皆さんに喜んで頂きますと誓いなさい。きつと治りますよ」

彼女は電話をしながら親や勤め先の上司に反発して来たことに気付き、涙が流れ続け、電話が切れた途端に痛みがすっかり取れてしまったのです。

(昭和五十四年、真実に生きる3号より)

# ぶし眞教法話

会長 田中庸仁  
たなか つねひと



## ◇施しが幸せへの第一歩

眞生会は法華經の実践教団です。法華經は菩薩行の實踐により仏になるための教えです。

菩薩行とは「上求菩提、下化衆生」といって、簡単に言えばたくさん教えを聞いて心を磨き、困っている人のために善いこととして喜んでもらう行いです。

そのためには、足繁く教会にお参りし、最低月に二度や三度は法話を聞いて仏縁法縁を深めることです。世の中は日進月歩、日に新しく変化しています。常に教えを聞いて心を磨いていないと愚痴不足、欲や怒りが多くなり、心はすぐに錆ついてしまいます。

教えを知らない人はもちろん、折角<sup>せつかく</sup>教えを聞いていた人でも、しばらく教えから遠ざかっていると知らぬ間に考え方が元の凡夫<sup>ぼんぶ</sup>に戻ってしまい、しまったと気づいた時にはあつという間に年を取って「信仰の浦島太郎」になってしま

います。

教えは「素直さと謙虚さ」がなければ心に浸み込みません。自分が（我）正しい、親が（我）悪い、相手が（我）悪い、世間が（我）悪いと「我が強い」うちは運命は変わりません。「電信柱の高いのも、郵便ポストの赤いのも、全部自分が悪いのよ」というぐらい素直で謙虚になれば誰でも幸せになれます。小理屈や言い訳をしているうちは、運命は変わりません。無条件降伏・全面降伏をすれば、無条件で幸福になり、全面的に幸福になれるのです。

菩薩の修行の六波羅蜜（布施、持戒、忍辱、精進、禅定、仏智）の最初にある「布施」によって我が取れるのです。「施し」の徳を積むから、「持戒」教えを理解し保つことができ、「忍辱」我慢ではなくすべてを感謝に受け止めることができ、「精進」良きことを続けることによって、「禅定」心に動揺なくいつも穏やかになれ、「仏智」何事も仏さまの智慧で考えることが出来るようになるのです。これを成仏というのです。

布施には財施、身施、法施があります。財施はもつとも簡単で手っ取り早く我を取る身近な方法です。命の次に大切なお金で徳を積むことで惜しむ心「執

着」という我が取れるのです。

身施は仏事のため、善いことのために労力の徳を積むことです。特に仏事の「奉仕行」をすることによって教えがより深く身に浸み込むのです。

最も徳が積めるのは人に教えを伝えたり、教えにお誘いする法施です。法を施すためには、第一にたくさん法話を聞くことです。

本書「ひかり」発刊の浄財「まごころ誌代」も教えを伝える法施の一助となり、総本山や教会の掃除、行事のお役、法座の当番などは直接の身施です。都合や遠方で参加できない方は、聖地里山募金やご奉仕の皆さんに飲料やお弁当などの応援も身施の代わりとなります。

一輪車ではすぐ倒れます。二輪車でも不安定です。財施・身施・法施の三輪車ならば人生を安心して乗りこなせます。

#### ◇困る自分の罪と悟れば解決

「長らくお世話になった今の会社を辞めることにしました」と、あるご婦人が報告にされました。訳を尋ねますと、数年一生懸命働いて来ましたが、なかなか正社員にしてもらえず、オーナーへの不信感とオーナー夫人との確執かくしか



らだということでした。能力もあり真面目な方ではありますが「火の車、作る大工はおらねども、己おのが作りて己おのが乗りゆく」の教歌の通り、自分が正しいという「我が」のために、また一から出直してご苦労だなあと気の毒に思えました。

このご婦人は数年前に離婚問題で、友人のご紹介で相談に来られました。

ある出来事から夫に対する不信感が募つり、義母とも徹底して意見が合わず、離婚を決意されましたが、養育費などの条件で調停が折り合わず、なかなか正式離婚が出来ません。離婚をするにも離婚できるだけの徳とくがないと泥仕合どろじあいになって成立しないのです。喧嘩けんか両成敗りょうせいばい、双方に言い分はあると思いますから、早く解決するには無条件で相手の言い分を飲めば解決しますよと何度もお話しましたが「私は悪くない」という我のために受け入れられず、長引いているのです。

「社会は家庭の延長」といいますが、このご婦人は独身時代から実父に対する反発と不信感が根深くあり、実母とも意見の衝突が絶えないのです。今は子供を連れて実家にお世話になっているのですが、やはり親に対して心から下がることのできないのです。

離婚の原因である主人に対する不信感と義母との衝突も、退職理由であるオーナーに対する不信感やオーナー夫人との衝突の根本的原因も実は生まれ育った家庭にあるのです。因縁と影法師は付いて回るといいますが、この根本の考え方が変わらない限り、行く先行く先で同じ問題にぶつかるとは思います。

つまり、親と意見の合わない人、親をよく見れない人は、どこへ行っても目上や仕事に恵まれないのです。そして最後は、自分も親として子供と意見が合わなくなつて「親に与えた思いを受ける」ことになるのです。教えの理法から見れば一目瞭然いちもくりようぜんですが、教えをしつかり学んでいないと我が捨てられず「人の身が悪しく見ゆるはなかなか己が心の良からざるなり」という真理が分からないのです。

#### ◇素直に行えば結果は出る

かつて岐阜に箕浦三郎さんという方が見えましました。二十代半ばに肺浸潤しんじゆんになり、医者にも見放され再起不能の状態わらで藁わらをもつかむ思いで両親が法座に連れて来られました。

先生のご指導は「あなたは体に徳がないのだから体で徳を積みなさい。明日

から目が覚めたら『今日は気分がいい、調子がいい』と言って親を安心させてあげなさい。そして、寝ているだけでは良くなりません。這<sup>は</sup>つてでもいいから庭先の草を引き、廊下<sup>ろうか</sup>の雑巾<sup>ぞうきん</sup>がけをして徳を積みあげます」ということでした。びっくりした親が「医者からは病院ではもう治療の方法がないから、自宅で絶対安静にしていなさいといわれているのに、そんなことをしたら死んでしまいます。無茶です。」

「そうですか、実行できなければ医者言うように治る見込みはありませんよ」と厳しいご指導でした。

「先生、分かりました明日から実行します」と決心されたこの青年は、見るうちに健康を取り戻し、農協に勤めて最後は理事長を何年も務められ、生涯教えを信じ九十六歳まで生きられました。「はい」と素直にご指導に従い実践されたことにより七十年の余命を仏様から頂かれたのでした。

教えは素直に受け、実行することにより、大きな功德を受けることができるのです。これが蘇<sup>よみが</sup>える教え妙法の経力なのです。

# 釈尊物語

⑩

◇◆肉眼を失い天眼を得る◆◇

釈尊十大弟子のひとりに阿那律尊者あなりつがいます。

ある日、祇園精舎ぎおんしょうじやにおいて釈尊が説法をされた時、阿那律は不覚にも大勢の聴衆の中で居眠りをするという大失態を演じてしまいました。それに気付いた人々が冷笑し批判的な目を向ける者もあつた。釈尊は「私の説く教えを聴きながら、心地よく居眠りするのもよいではないか」と阿那律の失敗を温かくかばわれました。

しかし、説法が終わった後、釈尊は阿

那律を別室に呼ばれて「あなたは良家の子であつて、強い求道心をもつて出家してここに来ているのに、今日の法座において大衆の中で居眠りしたのは、いかがしたことであるか」と注意されました。気持ちの緩ゆるんでいたことを恥じ、ひれ伏して釈尊を拝し、「今後、私はたといこの身が爛ただれようとも、手足が溶けようとも、誓つて如来の前にあつて坐眠ざみんするようなことは致しません」と強い懺悔ざんげの誓いをし、以後長い間、不眠ふみんの修行を続けましたが、遂に無理がたたり、重い眼病を患つたのです。

心配された釈尊が「阿那律よ。刻苦に過ぎることはよくない。怠け心は避けなければならぬが、刻苦もまた避けなけ

ればならない。中道こそ進むべき道でなければならぬ」と諭さとされましたが、阿那律は聞きませんでした。

「私は以前、釈尊の前で不臥不眠の誓いを立てましたから、その誓いを破ることは出来ません」と釈尊のお言葉を固辞するのでした。

そこで、釈尊は名医の耆婆ぎばに治療を依頼されました。「身体には食物が栄養となるように、眼には睡眠が栄養である。あなたは睡眠をとらなければいけない」との診断も頑かたくなに拒こほみ続け、ついに阿那律は失明してしまいました。その時パッと心眼が開け、以後天眼阿那律てんげんあなりつと称されるようになったのです。

この実話を知る時、猛烈な反省と強い

信念をもった修行の結果、天眼が開けたことは素晴らしいことではありますが、尊敬する師である釈尊のご指導に素直に従い、睡眠をとりながら精進していれば失明することはなかったでしょう。

※經典に「質直しちじき意柔軟いじゅうなん」とあるように、固い信念と同時に真理と師の指導に対し素直に従う柔軟さが大切なのです。信念と頑固（我）は似て非なるものであり紙一重です。ベテランの年長者であっても高弟であっても「師の言われることでも、それだけは出来ません」という人に幸せは遠く「はい、分かりました。そういうものですか」という素直な人は、遠回りせず最短時間、最短距離で幸せに到達できるのです。

# 今月の運勢（7月）

（2021年7月8日～8月6日）

## 一白水星

物事の完成間近ではあるが慌てず時期を待つこと。心に誠を保ち、じっくり腰を据えて待つていれば、天から恵みが与えられる。その時は思い切った勝負に出ても吉となる。

## 二黒土星

前進発展の実行力が強く、大いなる収穫の時である。やるべきことをやっているのでは何とも言えないが威圧的にならないように。運勢は強いが、うまく行かない時を想定して準備も怠らないこと。

## 三碧木星

小さな事はよいが大きい

な事を成す時ではない。行いは出しゃばら

ず控えめに過ぎる方が利を得られる。責めるより守り、前進より維持や後退を心掛ければ吉となる。

## 四緑木星

しつかりした主婦が一家を支えるように、組織や集団も裏方の働きが肝心。主役と裏方の和合が成功の本。突然の意見の対立や離散の危険性がある。仲良くすることが最も大切。

## 五黄土星

人間関係のトラブルが起りやすい。日々先祖供養をしつかり実践し、陰役を喜んで実行

すれば乗り越えられる。行動する前に周囲

に自分の考えをしつかり伝えること。

## 六白金星

能力を内に隠して表に出さないこと。目立つと嫉妬されやすい。状況は行き詰まっているので無理して行動しないこと。今は我慢の時と腹をくくって時を待つこと。

## 七赤金星

自分が喜んで積極的に動けば、その魅力に若者を中心に多くの人が喜んで集まり従ってくれる。目的が正しければ周囲の協力を得て願いは叶う。但し、有頂

天にならないこと。

## 八白土星

勢いが強い時なので、難問題を一気に処理しよう。大崩壊は大掃除の機が熟した絶好のチャンス。一から出直しの決意で断固として行うこと。後には泰平が訪れる。

## 九紫火星

仲間の中心にいて多くの人に注目されている。誰に対しても平等に明るく接し、希望と元気を与えよう。感情的になって大切な人と手を切ったりしないこと。周囲をよく観察し今は動かず、エネルギーを蓄える時。

## 「まごころ誌代」御礼

紙面をもつて感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

★皆様の『まごころ次第』献金のご協力によって継続発刊しています。

永田雅子	樋口容子	早野起世	増田恵視子		
大下裕子	樋口恵美子	早野桂子	佐藤光洋	大橋千枝子	
池澤幸代	正木みつ子	高橋身衣	佐藤百々枝	松本裕樹	
某女	出田 渚	足立和美	安田初子	京川春男	
滝山恵依子	松下栄暉	横井志奈子	伊東 晃	鈴木正巳	
宮島りえ	松下祐侑香	横井富男	半澤照子	四日市某	
坪井佑介	今園花菜	亀井由実子	横山知津子	澤 芳子	
荒木敬依子	今園雄太	亀井善広	土川廣美	高橋けさ江	
小林佑実子	今園達也	田中宏明	土川康二	東森敦己	
今井純司	小村友子	田中啓予	土川恭代	岸本起美世	
三村千佳	小村一紘	田中佑季子	土川順寛	岸本昌子	
村上視佑記	笹原正子	田中庸仁	宮田裕加里	小田陽子	
坂本育身	笹原トミ子	亀井善二	多田道子	滝本光夫	
細谷早予子	谷口祐子	多田佳央	多田正幸	福元正子	
奥田佳代	谷口祐晟	平口富子	豊田真悠子	亀井善二	
石丸祐視子	三村南央斗	長尾夏芳里	豊田直正	松本真由美	
清崎聖良	堀田純子	清崎結斗	早野雅大	山本季美衣	

### 《入会のご案内》

真生会は、個人の心の勉強と実践を目的とする個人会員制です。各家の宗旨宗派はご自由です。詳しくは総本山真生寺、各教会にお尋ね下さい。

☆会員会費 500円/月

発行所 宗教法人 真生会 総本山真生寺  
〒501-1105 岐阜市彦坂178番地  
TEL 058(235)7304

発行人 会長 田中庸仁  
振込先 三菱UFJ銀行 岐阜支店

普通口座 3715509

名義 宗教法人真生会 代表役員 田中庸仁

## しあわせ眼鏡

心の三本脚  
さんぽんあし

優しさを、思いやり、

そして、微笑み<sup>ほほえ</sup>

このメッキが剥げないよう

に・・・

優しさを、思いやりは、

相手の立場に立って考える

ことなのです。(教母さま「仏の声」より)

お気軽にご連絡ご相談下さい

【総本山真生寺】 〒501-1105

岐阜市彦坂 178 番地

T E L 058 - 235 - 7304

【岐阜教会】 〒500-8882

岐阜市西野町 3 - 19

T E L 058 - 262 - 9615

【大阪教会】 〒532-0028

大阪市淀川区十三元今里 3-4-10

T E L 06 - 6308 - 5637

【名古屋教会】 〒454-0808

名古屋市市中川区九重町 3 - 10

T E L 052 - 351 - 3904

上記の教会にお申込み下さい。必要な冊数を毎月お送り  
します。詳しくはお尋ねください。

2021年6月10日発行 第190号(通巻295号)  
※誌代無料(浄財の献金により無料発行しています)